

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要(事業所記入)】			
事業所番号	4572100644		
法人名	社会福祉法人 平成会		
事業所名	グループホーム あじさい苑		
所在地	宮崎県東臼杵郡美郷町北郷宇納間170番地		
自己評価作成日	令和6年4月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 宮崎県介護福祉士会
所在地	宮崎県宮崎市原町2-22 宮崎県福祉人材センター人材研修館内
訪問調査日	令和6年6月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住み慣れた地域で馴染みのある人々が周りにいる。見慣れた山や川が全貌に広がり空気も澄んで居心地の良い環境である。花を移植し土に触れ、梅干し漬けやおはぎづくりの作業を通して「一人一人を大切に」をモットーに「できることの喜び」「当たり前の暮らし作り」のお手伝いをしている。法人内外の関係事業所や自治体、消防、病院、家族、地域の方々との連携を図り協力体制も出来ている。防疫対策については常に施設や関係機関との情報交換を行い状況に応じて対策を講じている。そういう環境の中で職員も安心して働くことができより良いサービスの向上に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

周囲を山と田畑に囲まれ、澄んだ空気が感じられる環境に立地している。「一人一人を大切にする」をモットーに、できることを探す、笑顔を引き出す支援がなされている。家族との関係を大事にし、関係性が途切れることのないような支援を働きかける姿がある。「嬉しい」という言葉を大切に、入居者からたくさんの言葉と笑顔を引き出す努力が見える。職員も慣れるに従い、楽しい職場と思える雰囲気づくりに努め、自分のもつ力に自信が持てるような職場環境づくりに力を入れている。職員のやさしさ、チームワークの良さが伝わってくるホームづくりになっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた環境の中で利用者一人ひとりが主役となり在宅に近い形で生活できるように支援を行っている。年度の初めに職員全員が共通理解し実践につなげている。	事業所理念は、わかりやすい言葉で書かれ、事業所内いたるところに掲示されている。職員への周知・理解を図るための努力がなされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染対策を講じながら散歩先での地元の人の交流、馴染みの美容室を招いてのカット、宇納間地蔵尊への参拝など地域との交流を意識して活動している。	散歩に出ることは頻回にある。すぐ近くに宇納間地蔵尊があり馴染みのある入居者は参拝を喜ぶ。機会を捉え近くのスーパーに行くなど地域住民と顔を合わせることに努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	個人情報保護の観点から「苑便り」を掲示しての啓発は中止した。あじさい苑に関する問い合わせや認知症への理解や支援などを伝えるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政、包括、家族代表、地域代表、施設と多様な方たちに参加して頂き助言をもとにサービスの質の向上や職員教育に生かしている。推進委員と消防と利用者との合同防災訓練は毎年実施している。	運営推進会議委員とは良好な関係づくりができています。実践報告に対しての関心も高く、相談しやすい関係からホームの取り組みに柔らかな助言・導きにつながるような意見ももらえている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	北郷地域課とは何でも相談できる関係性を保っている。台風の防水対策では一緒に考えて考え実際に土嚢を運んで対応してくれた。	行政担当者とは相談がしやすい関係づくりができています。担当者交代があってもきちんと連携が図られ、防災等に関する助言・支援等も受けられている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の職員研修への参加や施設相談員、理事長の指導を受けて全職員で共通理解し拘束しないケアに取り組み実行している。日中玄関は開錠し利用者の声掛けに注意している。	日中、玄関は常時開錠されている。様子観察をする中で帰宅願望等がみられるときは、一緒に外出をしたり、傍に付き添い話を聞く努力が行われている。日内変動はあるが、職員同士情報共有を徹底し、見守りに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修をもとに実際の事例の検証など学ぶ機会を作っている。虐待が見過ごされないように職員同士で注意を払うように努めている。。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等で説明は受けている。実際高齢者の環境も変わりつつあり繰り返し学ぶ必要性がある。必要性がある場合は関係者と話し合い活用出来るように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族に理解と納得をしてもらえるように分かりやすく十分な説明を行い安心してもらえるように努めている。疑問に対してはいつでも連絡をしてもらうように案内している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来苑するたびに要望や心配事を聴き情報提供と回答を行っている。こちらからも現状に対して家族に相談し提案などを受け運営に反映させている。	家族来訪を受け、管理者が可能な限り現状を伝え、家族との協力関係を築く努力が行われている。家族から得た細かな情報を、本人中心のケアに反映できるように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段の業務の中や毎月の職員会で意見や提案をするようにしている。そして検討、実践を繰り返し反映させていく。検証の必要があれば直ちに検証する。	普段の業務の中で意見のやり取り、必要に応じて個別の話を聞く努力がなされている。検討が必要な事項は上司に相談が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績、勤務状況等は把握している。その上でよりチームワークを高めやりがいや向上心をもって働けるように環境が整っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部、法人内の研修を受け学ぶ機会を推奨している。介護福祉士、介護支援専門員の資格取得に力を入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会や勉強会等でお互いの知識を高め情報交換や交流会などを通してネットワーク作りに努めている。活動の中で得たことをサービスの質の向上に取り入れている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望等に耳を傾けよく話を聴く。相手の立場になり話を聴くことで信頼関係を築き安心してもらえるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との面談や電話での話し合いを重ね、信頼関係を築くことで相談しやすい雰囲気を作り、困りごとを話してもらえるように努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相手の現状をよく把握し、何が必要なのか、本人は何を求めているのかをよく聴き取る。本人の意向に添えるように、また過剰にならないように支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の趣味ややりたい事、出来ていることを大切に、本人が必要とする部分を一緒に 行い、励まし時には喜び、共に支えあうことの出来る関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族との共有する時間を多く持てるような働きかけをし絆を大切にしている。家族と職員とで一緒に悩み考えながら、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室へ出向いたり、出張依頼やAコープでの買い物に出かける。定期受診時の待合室も出会いの場なのでその様な機会を利用し今迄の関係性が継続出来るように支援に努めている。	年に2回程度、衣類の移動販売が来て、本人が手に取って気に入ったものを購入できる楽しみな機会がある。その際は、家族と相談し金銭を手にすることができ、自分で支払いができる支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性の把握をするように努めている。作業には全員に声をかけ無理のない程度で参加を促したり毎日一緒に歌をうたい利用者同士が関われる機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、これまで培った人間関係を大切に、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの話を聴き個々の思いに答えられように努める。時には本人、家族、職員と話し合い、わずかでも意向に添えないか皆で検討している。	入居者の思いを聞き取ろうとする努力がなされている。本人から聞き取れないときは、家族に協力をいただき、受けた情報は職員間でも共有して、本人の人権尊重と意向を重視するケアに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者や家族との信頼関係を築きその人の歴史やまつわる話を聞く。その人に関わる人達からの話や関係機関からの情報依頼に務め把握する。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々共に生活し、気づいたことなどを記録して一人ひとりの生活を把握する。心身状態を観察し、職員全員で情報を共有、確認することに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者がモニタリングを行い職員全員で共通理解し確認している。本人は勿論、関係機関の情報や家族の意見も参考に現状に即した介護計画を作成している。	担当者がモニタリングを行い介護支援専門員が確認し、職員間の情報共有化を図っている。家族の意向確認も必ず行い、本人がもつ力を見つけ出すことと「嬉しい」と思ってもらえるケアにつながる努力がなされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	「私の一日」「申し送りノート」に日々の様子や実践、結果、気づきや工夫などの記録をする。本人の発言を記録することで情景が解るようにする。また職員間で情報を共有する事で実践へ反映されている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの状況把握に努め、その時のニーズに応えられるよう柔軟な支援に心掛けている。地域から望まれるサービスの多機能化にも努めていく。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	それぞれの地域資源を把握し活用しながら本人の望む暮らしに近付けることができるように努めている。また新しい地域資源の開拓取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望する医療機関に状況報告をしながら定期的に受診している。状況によっては職員が同行し本人・家族・主治医・介護職との共通理解が出来るようにしている。	通院は家族が行うことになっているが、その機会を家族と関われる貴重な時間と捉え大事にしている。主治医には必要なことはきちんと伝え、相談しやすい関係性を維持している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の「いつもと違う」を見逃さず法人内の看護師、歯科衛生士に相談し、根拠に基づいて対応し状況に応じて必要であれば適切な受診や看護が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	普段から病院関係者とのより良い関係づくりに努めている。入院した際は早急に情報提供をし、また実際の状況を確認し病院側からの情報も収集する。早期に退院出来るように連携しながら相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に終末期のあり方や苑での出来ることの限界を十分に説明している。状態変化に応じてその都度本人、家族、主治医等の話し合いを行い「本人の望む幸せ」に近付けることが出来るように取り組んでいる。	入居時に施設のできること・できないことの細かい説明を行う。終末期の医療的ケアができないため入院又は施設に移る選択肢を提供している。夜間等の緊急時対応は常に気にかけている事項でもあり、入居者の疾病・体調等に関して皆で勉強していく必要性を考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員会で緊急時のマニュアルの確認と訓練を行っている。実際に緊急事態が起こった場合は後にそれを基に振り返りを行い再確認をし職員間で共有する。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月防災訓練を行っている。年に一度利用者、職員、役場の消防本部と運営推進委員会との連携で通報、避難、誘導、初期消化の訓練を行っている。	年に一度は法人との合同訓練を実施し、毎月、防災訓練を行っている。難聴の入居者の存在もあり、緊急時に伝わるように紙に大きく状況を書き提示して行動を促したりしながら、伝わる工夫を考えている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを観察し何を求められているのか考えそれぞれが個人として尊重され、プライバシーの保護や尊厳を損ねないように、声掛けや対応に心掛けている。	入居者一人ひとりに細かい心配りがある様子が伺えた。職員対応にも注意を払い、個々人の尊厳保守に努めている。気になる対応があれば、管理者が直接職員に伝え、入居者の人格尊重とプライバシー保護に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の生活の中で利用者が話しやすい雰囲気作りに努める。本人の思いや希望をゆっくりと聴く姿勢を作る。その話の中で自己決定が出来るように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活のリズムを大切にし本人の意向を取り入れた支援を行っている。個々の希望に沿った過ごし方を大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	それぞれの好みのおしゃれが出来るように職員と一緒に選んだり楽しんでもらっている。美容室の出張依頼や化粧品・洋服等を購入したりと支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	施設内の梅干しを漬ける一連の作業を職員と一緒にしながら会話も弾む。いなり寿司やおはぎを自分で作って食べることで利用者の喜びにもつながる。。	食形態はそれぞれ違うが、自分が今から食べるものは何かを気付いてもらうため、メニューの唱和を毎回行っている。食べたいものを聞き、おやつに提供したり、時々はおやつを手作りし楽しみを共有している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスのとれた季節感のある献立となっている。水分摂取量、嚥下状態など問題がある時は栄養士に相談し共に支援している。状態によっては本人と相談の元自助具等を活用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりに合った声掛けをし、それぞれに合った口腔ケア、歯磨きの支援を行い年一回施設内の歯科衛生士による歯科検診を行っている。歯ブラシの日光消毒に努め洗浄剤も活用している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを見出し個々に合った声掛けや誘導を行い、トイレ障害を少しでも無くせるように支援を行っている。夜間は必要な人はポータブルトイレを使い自立を促している。	入居者はおむつ使用をせず、トイレでの排泄を基本としている。自立保持のため個々人の排泄パターンに沿い声かけ誘導を行いながら、尿意・便意を大切に維持してもらうことに努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの体調、排泄リズム、活動の把握をする。状態により食事の形態、水分、運動を検討する。場合によっては主治医や栄養士に相談し各人が満足できる排便に繋がるように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者それぞれの体調や安全に努め、外出予定を考慮しながら週三回支援している。ゆず湯を取り入れ季節や風情を楽しんでもらっている。	週に3回の入浴を提供するが、必ず浴室内には職員が付き添う。できない部分のみの介助を行い、浴槽の出入りには注意を払っている。ゆず湯の提供もあり楽しまれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりがいつでも気兼ねなく休息出来るように促している。寝具の日光消毒や日中の活動を充実させたり、入浴で温まることで夜には質の良い眠りを目指している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報を綴じ個人の服薬状況が直ぐに確認できる。体調に異変がある場合は直ちに主治医に報告し相談をする。与薬時は確認を重ね事故防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全員で洗濯物たたみは日課になっている。居室でおやつを楽しんだり、買い物や隣の施設利用者へ面会等個々の希望で行っている。全員でレクリエーションに参加し気分転換につながっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候に恵まれれば散歩に出かけるように支援している。防災訓練も戸外へ避難する。家族との外出など家族や地域の方と協力しながら本人の希望を叶えられるように努めている。	外に散歩に出ることも多い。おやつを持参し、庭で食べることもある。田植え・稲刈りなどの様子が見られ、楽しみにつながっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金のトラブルを防ぐために小遣い帳を作成し管理は職員で行う。必要時にはその都度使うことが出来る。常にお金を持ちたい人は支援の方法を家族と本人と職員とで話し合い希望に添えるようにする。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	荷物が届いた時のお礼の電話をしたり、年賀状を家族宛てに作成する。「苑便り」が縁で便りも来る。携帯電話を自由に活用している利用者もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	山々の季節を感じられるように窓を開放したりトイレには植木鉢で花を咲かせ、共有の空間は常に整理整頓に心がけ使いやすさにも配慮する。壁飾りを利用者と共に作成し空間を作り上げている。	窓から見える景色は見慣れた田畑の様子であり、季節感を感じられる視界の確保ができています。テレビ・ソファなどある共用空間は広さがあり、ゆったりと座り会話する様子がある。壁には手作りの飾り、居室入口ドアにはそれぞれの名前と飾り物が添えられ個性を出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれが好きな場所で自由に過ごせるようにテーブルやソファを配置している。共同空間は広くないのでその時々で動線にも工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人希望によりTVや愛着のあるものを持ち込み居心地の良い部屋作りに努めている。職員が協力し、家族の写真やメッセージカードなどを飾りながら思い思いに工夫している。	ゆったりとした居室は広さを感じられる造りである。家族写真などを飾り、落ち着いた雰囲気である。入居の際、持ち込める物などを相談し職員と共に自分らしい空間づくりができています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者それぞれが分かり易く動けるように居室やトイレに目印を付けている。混乱なく安全で自立した生活ができるように工夫している。		